

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年2月号

- ◇ 【 トピックス 】 米国のワクチン接種義務化を巡る動向 P.1
- ◇ 【 NY ライフ 】 ニューヨークで楽しむアジア料理 P.3
- ◇ 【 ニュース一覧 】 P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部

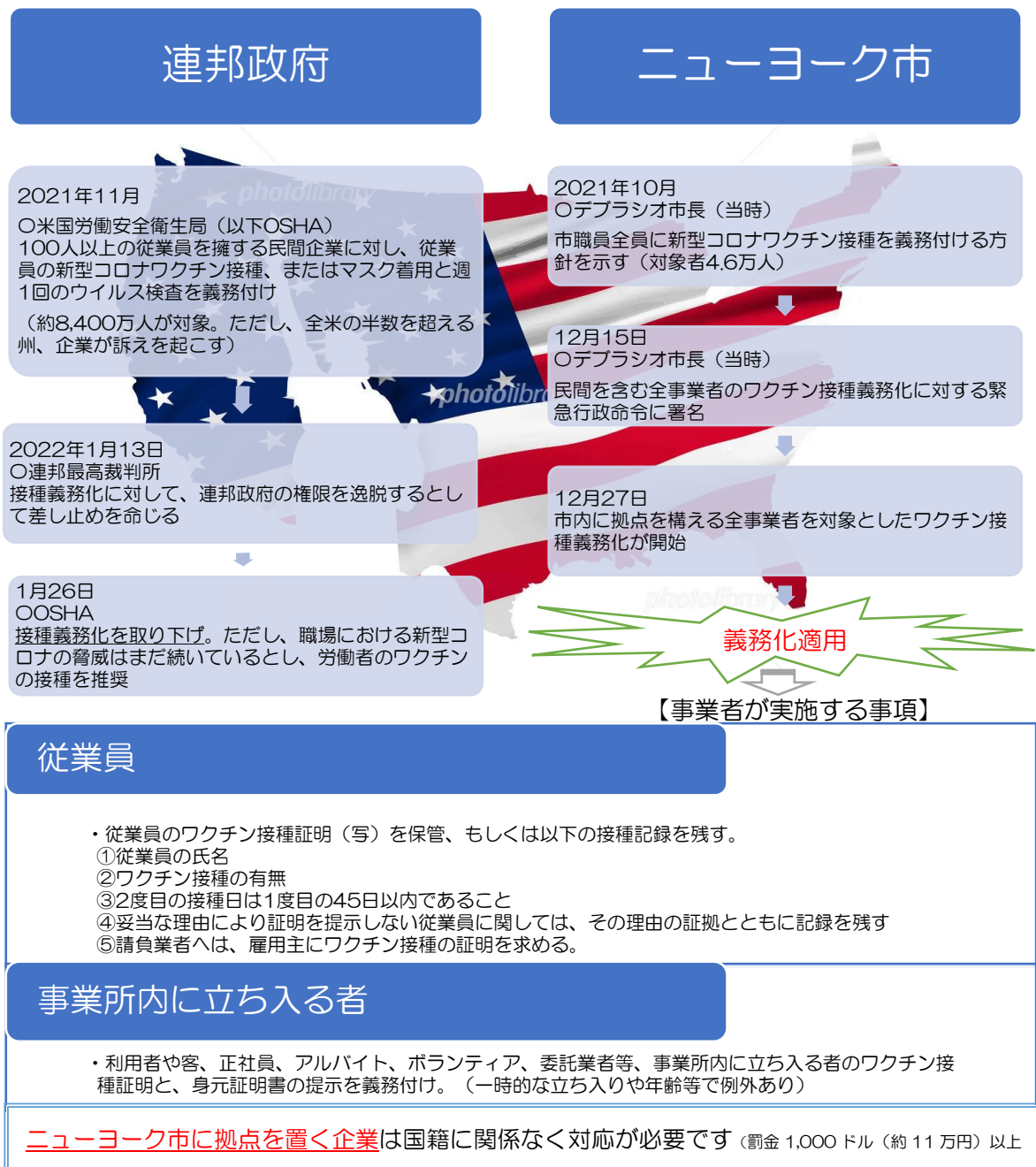


トピックス

－ 米国のワクチン接種義務化を巡る動向 －

米国のコロナ感染状況はピークアウトしたと言われてはいますが、2月4日現在の感染者は、いまだに7日間平均30万人を超えています。2回目のワクチン接種者の割合も約64%（ブースター接種は約27%）に止まっており、ワクチン接種を義務化する自治体も出てきています。今回はワクチン接種の義務化の動向と事業者への影響等をレポートします。

1. ワクチン接種義務化を巡る動向



2. 注目ポイント

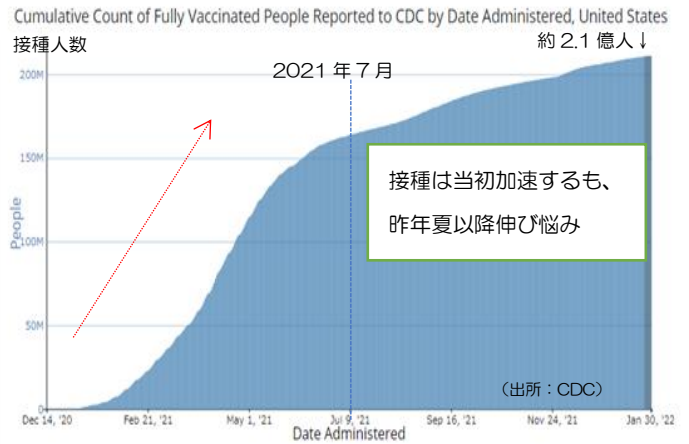
ワクチン接種義務化は連邦政府及び州、市で対応が異なるため、逐次動向を把握する必要があります。また、ワクチン接種は従業員の職種や支持政党、宗教でスタンスが異なること、またその職場への報告はプライバシーに関わる部分でもあり、雇用者側の配慮が求められます。

✓ 中間選挙への影響

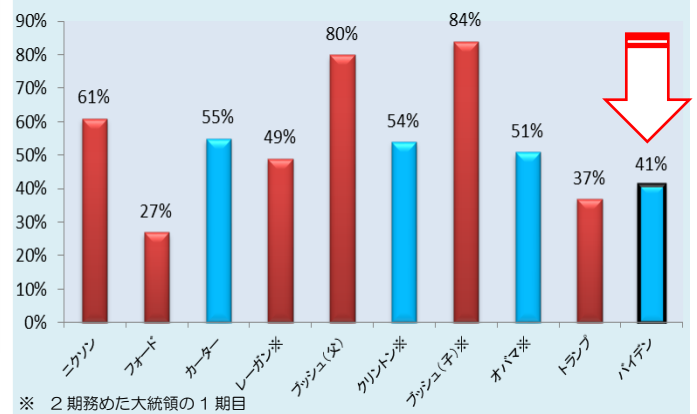
連邦の接種義務化差し止めは、コロナ対応を政治成果としてアピールしたいバイデン氏にとって痛手です。米国での接種率は頭打ち（全人口の64%）にあり、コロナ感染拡大は社会情勢やインフレ等経済への悪影響も懸念され、同氏の支持率は伸び悩んでいます。

今年は11月に中間選挙を控えています。歴代大統領の中間選挙を控えた年初の支持率を見てもバイデン氏は現在41%（2/4時点）と低位にあり、厳しい戦いとなる見込みです。コロナ対応を含め支持率回復に向けた様々な政策が打ち出される可能性があります。

米国のワクチン接種完了者の推移



過去の間選挙年初の大統領支持率 (赤: 共和党、青: 民主党)



当事務所では、米国進出を検討される企業様の影響把握に努めております。

ご質問等ございましたら、どうぞお気軽にお問合せ下さい。(お問い合わせ先: newyork@joyobank.co.jp)

(ご参考) 当事務所での規制対応

- ① 従業員のワクチン接種証明 (写) 保管
- ② 命令順守宣誓書掲示 (右図実物)
⇒市の保健・衛生局による命令を順守すると宣誓した命令順守宣誓書を縦22×横28cm以上のサイズの紙に印刷し、事務所内の目立つ場所に掲示。

他、全従業員のブースター接種 (3回目) を実施しています。



【ニューヨーク駐在員事務所 飯塚 藤郎】

—ニューヨークで楽しむアジア料理—

様々な国から移住した人々が暮らすニューヨークには、それぞれの国の料理を楽しめるレストランが多数あります。母国の味を求める人に向けてオリジナルの味を提供する店、現地の文化や好みに合わせて元の料理をアレンジしている店等、そのスタイルも様々です。その中でも外食することが多いニューヨークで楽しめるアジア料理を紹介します。



まずは、週末のランチにぴったりの飲茶です。マンハッタンの至る場所にお店があり、行きやすいのも嬉しいポイントです。注文をしてしばらく待つと、蒸したての餃子や小籠包、焼売などの点心が出てきます。色々な種類を食べたい時は、大人数で行くようにしています。



韓国のお店が集まるコリアンタウンで食べるのは、焼肉です。日本の焼肉と違うのは、肉を頼むとスープやキムチ、サラダ等のサイドメニューが沢山ついてくること、そして

お店の人が時々テーブルに来て肉を焼いてくれることです。美味しく焼け、食べ頃を教えてくれるのは嬉しいのですが、食べ切る前にどんどん次の肉が焼かれるため、いつも焦って食べることになってしまいます。



この真っ赤なスープの麺はチャンポンという名前で「韓国の中華料理」に分類される、主に中華料理店で食べることができる人気の麺料理です。野菜やシーフードがたっぷり入った辛いスープとコシのある麺がクセになり、アメリカに来て初めて出会い、一番好きになった料理でもあります。ただ、「韓国の中華料理」であるためか、マンハッタンの中華料理のレストランでも提供している店が多くありません。今度は

チャイナタウンへ美味しい店を探しに行きたいな、と思っています。

東南アジア料理も種類が豊富です。その中でもよく食べに行くのがベトナム料理です。ベトナム料理で代表的なものがフォーですが、店によってスープの味や麺の形状、トッピング等が異なり、何件も試して好みの店を見つけることができました。スープは牛骨ベースで、米粉の麺の上に牛肉スライスと薬味がのったシンプルな麺料理ですが、あっさりとした中に深みがあり、飽きることなく何度でも食べたくなる味です。



旅行や帰国が難しいコロナ禍において、各国の料理を食べることができるのは大きな楽しみです。この状況の中、多くのレストランが工夫をしながら営業し、そのような楽しみを提供し続けてくれていることに感謝しています。

【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

ニュース一覧

(2021年12月下旬から2022年1月下旬のニュースを抜粋)

●政治

- ・バイデン大統領、ワクチン・検査場増設、キット配布等オミクロン対策発表(12/21)
- ・バイデン大統領、ウイグル強制労働防止法案に署名(12/23)
- ・CDC、無症状コロナウイルス感染者の隔離期間を10日間から5日間に短縮(12/27)
- ・米中など核保有5大国が共同声明発表「核戦争に勝者はいない」(1/3)
- ・OPECプラス、2月も現行の増産ペース維持で合意(1/4)
- ・バイデン大統領、米議会襲撃から1年目に記者会見(1/6)
- ・日米が軍事技術の新協定、超音速兵器に対処へ、中国を強くけん制(1/7)
- ・バイデン政権、医療保険会社にコロナ自宅検査カバー義務付け(1/10)
- ・米最高裁、企業へのワクチン接種義務化認めず、バイデン政権に痛手(1/13)
- ・バイデン政権、原油高に対処するツールはまだある、必要ならOPECと協力(1/18)

●金融政策

- ・ミネアポリス連銀カシュカリ総裁、利上げ見通し前倒し、今年2回と予想(1/4)
- ・FRB、FOMC議事要旨で、早期利上げやバランスシート縮小が必要になる可能性(1/5)
- ・ホワイトハウスサキ報道官、「コロナ刺激策巡り持続的協議 経済は好調」(1/5)
- ・セントルイス連銀ブラード総裁、FRB、3月利上げの可能性(1/6)
- ・FRB当局者、年内利上げで見解一致、引き締めペースが焦点に(1/6)
- ・アトランタ連銀ボスティック総裁、FRB今年は3回の利上げ必要、初回3月の可能性(1/11)
- ・バイデン大統領、「物価の伸び依然高過ぎる」(1/12)
- ・ブレイナードFRB理事、インフレ制御がFRBの「最重要責務」(1/13)
- ・シカゴ連銀エバンス総裁、年内3回利上げは「妥当な初期予想」(1/13)
- ・バイデン大統領、FRB首脳部指名発表「多様な考えや視点もたらず」(1/14)

●経済指標

- ・中古住宅販売戸数:11月は646万件と前月から増加(予想は652万件)(12/22)
- ・国内総生産(GDP):7-9月確報値は前期比年率+2.3%と改定値から上方修正(12/22)
- ・新築住宅販売戸数:11月は74.4万件で7ヶ月ぶりの高水準(予想は77万件)(12/23)
- ・消費者景気信頼感指数:12月は115.8と前月の111.9から上昇(予想は110.8)(12/22)
- ・ISM製造業総合景況指数:12月は58.7と前月の61.1から低下(予想は60.0)(1/4)
- ・貿易収支:11月は▲802億ドルと前月の▲671億ドルから赤字額が拡大(1/6)
- ・非農業部門雇用者数:12月は前月比+19.9万人と減少(予想は+42.2万人)(1/7)
- ・失業率:12月は3.9%と前月の4.2%から改善(予想4.1%)(1/7)
- ・コアCPI(除食料・エネ):12月は前年同月比+5.5%と大幅な伸び(1/12)
- ・小売売上高:12月は前月比-1.9%と5ヶ月ぶりの減少(予想は-0.1%)(1/14)
- ・鉱工業生産総合指数:12月は前月比-0.1%(予想は+0.2%)(1/14)
- ・住宅着工件数:12月は前月比+1.4%の170.2万戸(予想は165万戸)(1/19)

(出所:各種新聞等)